

OHSAS18001:2007	JISHA方式適格OSHMS基準
<p>4.1 一般要求事項</p> <p>組織は、この OHSAS 規格の要求事項に従って、OH&S マネジメントシステムを確立し、文書化し、実施し、維持し、継続的に改善し、どのようにしてこれらの要求事項を満たすかを決定すること。</p> <p>組織は、その OH&S マネジメントシステムの適用範囲を定め、文書化すること。</p>	<p>15 労働安全衛生マネジメントシステムの運用による効果</p> <p>労働安全衛生マネジメントシステムの運用により、安全衛生方針の実現、安全衛生目標の達成など、安全衛生水準の向上が見られること。</p>
<p>4.2 OH&S 方針</p> <p>トップマネジメントは、組織の OH&S 方針を定め、承認し、OH&S マネジメントシステムの定められた適用範囲の中で、OH&S 方針が次の事項を満たすことを確実にすること。</p> <p>a) 組織の OH&S リスクの性質及び規模に対して適切である。</p> <p>b) 負傷及び病的健康状態の予防、並びに OH&S マネジメントと OH&S パフォーマンスにおける継続的改善に関するコミットメントを含む。</p> <p>c) 組織の OH&S 危険源に関して適用すべき法的要求事項及び組織が同意するその他の要求事項を少なくとも順守するというコミットメントを含む。</p> <p>d) OH&S 目的の設定及びレビューのための枠組みを与える。</p> <p>e) 文書化され、実施され、維持される。</p> <p>f) 組織の管理下で働くすべての人に、それぞれの OH&S の義務を自覚させる意図をもって、周知される。</p> <p>g) 利害関係者が入手可能である。</p> <p>h) 組織にとって適切で妥当であることが確実に続くように定期的にレビューされる。</p>	<p>1 安全衛生方針の表明</p> <p>(1)事業者の安全衛生方針が表明されていること。</p> <p>(2)安全衛生方針には、次の事項が含まれていること。</p> <p>ア 事業者自らの安全衛生の基本的な考え方</p> <p>イ 労働災害の防止を図ること。</p> <p>ウ 労働者の協力の下に、安全衛生活動を実施すること。</p> <p>エ 労働安全衛生法又はこれに基づく命令、事業場において定めた安全衛生に関する規程等を遵守すること。</p> <p>オ 労働安全衛生マネジメントシステムに従って行う措置を適切に実施すること。</p> <p>(3)安全衛生方針は、次により作成されていること。</p> <p>ア 健康づくりに向けての方向を明示すること。</p> <p>イ 事業場の安全衛生活動の実績等を踏まえたものであること。</p> <p>(4)安全衛生方針は、安全衛生活動の実態の変化、システム監査結果等に応じて、見直されていること。</p> <p>(5)安全衛生方針は、労働者、関係請負人その他の関係者に周知され、理解されていること。</p>
<p>4.3 計画</p>	
<p>4.3.1 危険源の特定、リスクアセスメント及び管理策の決定</p> <p>組織は、危険源の継続的特定、リスクアセスメント及び必要な管理策の決定の手順を確立し、実施し、維持すること。</p>	<p>6 危険性又は有害性等の調査及び実施事項の決定等(危険性又は有害性等の調査及び実施事項の決定)</p> <p>(4)機械、設備、化学物質、作業行動等の危険性又は有害性等を調査する手順が定められていること。</p> <p>(5)6の(4)の手順には、次の事項が含まれていること。</p>

OHSAS18001:2007	JISHA方式適格OSHMS基準
<p>危険源の特定及びリスクアセスメントの手順は、次の事項を考慮に入れること。</p> <p>a) 定常活動及び非定常活動</p> <p>b) 職場に出入りするすべての人の活動（請負者及び来訪者を含む。）</p> <p>c) 人間の行動、能力及びその他の人的要因</p> <p>d) 職場内において組織の管理下にある人の安全衛生に悪影響を及ぼす可能性がある、職場外で起因し特定される危険源</p> <p>e) 組織の管理下にある作業に関連する活動によって職場付近に生じる危険源 参考 1 そのような危険源は、環境側面として評価することがより適切な場合がある。</p> <p>f) 組織又は他者から提供されている、職場のインフラストラクチャー、機器、及び材料</p> <p>g) 組織の活動、又は材料に関する変更又は変更提案</p> <p>h) 一時的変更を含む、OH&S マネジメントシステムに対する修正、並びに運用、プロセス及び活動に対するその影響</p> <p>i) リスクアセスメント及び必要な管理策の実施に関連している、適用すべき法的義務（3.12 の参考も参照）</p> <p>j) 人間の能力への適応を含む、作業領域、プロセス、施設、機械／機器、操作手順及び作業組織の設計</p> <p>組織による危険源の特定とリスクアセスメントの方法は次のとおりであること。</p> <p>a) 事後活動でなく予防活動が確実であるよう、その適用範囲、性質、タイミングについて定められている。</p> <p>b) 適宜、リスクの特定、優先順位付け及び文書化、並びに管理策の適用について規定する。</p> <p>変更のマネジメントに関して、組織は、OH&S マネジメントシステム又はその活動に関する変更を導入する場合には、その変更を導入する前に、関連する OH&S 危険源、及び OH&S リスクを特定すること。</p> <p>組織は、管理策を決定するときは、これらの評価の結果を確実に考慮すること。</p>	<p>ア あらかじめ定めた危険性又は有害性の分類があること。</p> <p>イ リスクを見積ること。</p> <p>(6)6の(4)の手順に基づき、危険性又は有害性等が調査されていること。</p> <p>(7)6の(6)の調査は、次により実施されていること。</p> <p>ア その作業に従事する労働者が関与していること。</p> <p>イ 必要な場合には専門的知識を有する者の助言等を得ていること。</p> <p>(8)6の(6)で調査された危険性又は有害性等の調査結果に基づき、労働者の危険又は健康障害を防止するため必要な措置を決定する手順が定められていること。</p> <p>(9)6の(8)の手順には、次の事項が含まれていること。</p> <p>ア リスク低減の対象とするリスクの優先度を決定する方法</p> <p>イ リスクを低減する措置の優先度の設定</p> <p>(10)6の(8)の手順に基づき、実施すべき措置が決定されていること。</p> <p>(11)6の(10)の措置の決定は、次により実施されていること。</p> <p>ア その使用部門の管理監督者等が参加していること。</p> <p>イ 必要な場合には専門的知識を有する者の助言等を得ていること。</p> <p>(12)6の(10)により決定された措置を速やかに実施するか、又は安全衛生計画に盛り込んでいること。</p> <p>(13)機械、設備、化学物質、作業行動等に係わる残留リスクの内容と対処方法が関係者に周知されていること。</p>

OHSAS18001:2007	JISHA方式適格OSHMS基準
<p>管理策を決定するとき、又は既存の管理策に対する変更を検討するときは、次の階層に従ってリスクを低減するように考慮すること：</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 排除 b) 置換え c) 工学的な管理策 d) 標識／警告及び／又は司令的な管理策 e) 個人用保護具 <p>組織は、危険源の特定、リスクアセスメント及び決定した管理策の更新の結果を文書化し、常に最新のものにしておくこと。</p> <p>組織は、OH&S マネジメントシステムを確立し、実施し、維持する場合は、OH&S リスク及び決定した管理策を考慮に入れるようにすること。</p>	

(続く)